



南中だより

第 1 号

発行日:令和4年 10 月 31 日 発行元:吹田市立南千里中学校

教育目標

『自ら学び・ともにつながり・やり抜く生徒の育成』



『読書で心の大地を耕そう!』

校長 羽間 博子

朝夕の冷え込みと色づき始めた木々の葉に秋を感じる季節となりました。

10月14日(金)は晴天の中、体育大会を無事終えることができました。持てる力を出し切り精一杯競技に取り組む姿、テキパキと動きスムーズな進行に力を発揮してくれた係の人たち、競技中の仲間をしっかりと応援する姿、どれも素晴らしくこの体育大会を盛り上げてくれました。閉会式での子ども達の表情から、やりきったという充実感が伝わり、本当に感動の一日となりました。大きな学校行事が終わり、3年生は、いよいよ本格的に自分の進路と向き合う時期になります。後期の生徒会もスタートします。

「一人一人が、今何をすれば良いか考え・仲間とつながり・色々なことを体験し、やりぬいてほしい」と願っています。

さて、「一冊の本との出会いが人生を変えることがある」

「一冊の本を手にするだけで未来が拓けることがある」

本にはそんな力があると私は思っています。



皆さんもよく知っている池上彰さんは、小学校6年生の時に「続 地方記者」という本を読み、その本に登場する新聞記者にあこがれ「将来は、新聞記者になる」と思ったのがきっかけで、現在ジャーナリストとして活躍されています。

私たちが、自ら体験して知ることには限界があります。しかし、本を読むことで、自分が知らない世界をまるで目の前で見るとかのように知り、また感じ、「体験」することができます。本の世界に入り込み登場人物と一緒にドキドキしたり、泣いたり笑ったりすることで、心が揺さぶられます。その「揺さぶり」が心の大地を耕し、いつの間にか自分や相手の気持ちを感じられる力が育っていくと思います。それが、読書のすばらしいところだと考えています。また、今はインターネットで検索すれば知りたいことは一発で出てきます。確かに本で何かを調べるとなると時間がかかり、関係ないことが書かれていたり、やけに難しいことが書いてあったり、結局知りたかったことは、たったの一行ぐらいであったと言うこともよくあります。逆に思いもしなかったことが書かれていて、それがとてもおもしろかったり興味深かったりすることもあります。それも読書の楽し

みだと思います。インターネットで調べるのとは違う「寄り道」のおもしろさが読書には、あるのではないのでしょうか。

季節は秋。読書をするのにちょうど良い季節となりました。

朝読書の時間、デジタル図書もあります。

あなただけの一冊を探しに、学校の図書室へも足を運んでみませんか。



お知らせ

- ・11月15日(火) 5・6限の授業参観につきましては、感染防止のため各家庭1名(出席番号の奇数、偶数で時間を分割)となります。詳細は、28日配付のプリントをご確認ください。また、下足付近にて新制服の展示を行いますのでご覧ください。
- ・11月は、内閣府が主唱する子供・若者育成支援強調月間です。吹田市でもこの運動に呼応して、「私たちの未来」と題して川柳を募集しました。4140作品の応募の中、南千里中学校2年生から優秀作品2点と入選作品2点が選ばれました。

親切な 人であふれる 吹田市へ
未来とは 待つものではなく 創るもの
全員が まちを変えられる 主人公
未来とは 今を確かに 生きること



- ・令和3年度より文部科学省「英語教育推進事業」に参加しています。昨年度の11月の公開授業について文部科学省HPに掲載されていますのでお知らせします。下記QRコードを読み取っていただき、大阪府を選択していただければご覧になれます。

